



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：アレッポ郊外での「化学兵器」使用報道

3月19日、シリア国営メディアは、反体制派がアレッポ郊外で化学物質を搭載したロケット弾を使用し、25人が死亡したと報道した。テレビでは、病院に運び込まれた被害者らの映像が流された。シリア政府は、国連に抗議の書簡を送るとした。反体制側は、化学兵器の使用を否定し、政府軍が使用したと反論した。シリア国民連合は、情報を確認しているとし、在英のシリア人権監視機構は、化学兵器使用の情報はないとした。19日時点では、米国ホワイトハウス報道官も、化学兵器使用は確認していないとした。

2012年12月下旬、反体制派がホムスで政府軍が化学兵器を搭載した砲弾を使用したと主張したが、イスラエル、米国は、使用された証拠はないと判断した。国際社会は、シリア政府が化学兵器を使用するかもしれないとの懸念を深めており、オバマ大統領などが再三、シリアに警告をしてきている。シリア政府は、化学兵器の保有について明言していないが、保有しているとしても、国民に使用することはないとの立場を表明している。

(中島主席研究員)